

群 教 七	G01 - 02
	平15.216集

# 毛筆楷書で漢字を正しく整えて書く力を 高めるマルチメディア教材の作成

- 基本的な点画・点画同士の接し方・字形に視点を当てて -

特別研修員 佐竹 秀樹（桐生市立境野小学校）

## 《研究の概要》

本研究は、毛筆楷書で漢字を正しく整えて書く学習を支援するためのマルチメディア教材を、Web形式で作成したものである。漢字を正しく整えて書くためには、基本の点画や字形等に留意して書くことが大切である。そこで、児童が本教材中の動画や静止画を通じて、点画を正しく書く筆づかい及び字形等を確認しつつ毛筆練習することが、毛筆楷書で漢字を正しく整えて書く上で有効なことを授業実践を通して検証した。

【キーワード：国語 - 小 書道 マルチメディア コンピュータ】

## 主題設定の理由

近年、児童生徒の漢字の読み書き、殊に「書く力」の低下に関することを耳にすることが多い。一口に「書く力」と言っても、その内容には、「言葉として正しく用いる力」と「文字として正しく書く力」との二つの面がある。それぞれその能力の低下をもたらした要因として、正しく言葉を使い他者とコミュニケーションを図る機会の減少をはじめ、児童・生徒を取り巻く言語環境の変化を挙げることができるが、両者に共通していることは、表意文字としての漢字の特質、つまり、一字一字の構成や意味についての理解が伴わなければ、書く力を高める学習の効果は上がらないということである。

漢字は一定の意味を表す符号として、その字特有の点画や字形を持っている。よって、文字として漢字を正しく整えて書く場合、誰が読んでも同じに読み取れるように、正しい点画や筆順で字形を整えて書く必要がある。

学習指導要領における文字指導は、各学年で書写の指導を行うこととしている。殊に毛筆に関しては第3学年以上で行い、「硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにする」と明記されている。これは、縦画・横画・はね・折れ・はらい等の基本の点画を書く筆づかいや点画同士の接し方、筆順理解や字形バランスの取り方が文字を正しく整えて書くことに大きく影響する毛筆で、これらの基本的事項をしっかり身に付けることが、その後の発展として、硬筆で文字を正しく整えて書く能力を向上させることにつながるためと思われる。

これまでの毛筆指導の中で、漢字を毛筆楷書で正しく整えて書くために、点画を書く筆づかいの様子や書写する漢字が有する字形バランス等を児童が確認しやすいように、一斉指導や個別指導でプリント資料や水書板、OHCを使い手本を示しながら授業をしてきた。しかし、限られた授業時間の中では、これらの教材では、個々の児童にわかりやすく何度も繰り返し手本を示せず、その結果として正しい筆づかい等が十分に確認できないまま、毛筆練習に取り組んでいる児童も多く見られた。そこで、漢字を正しく整えて書くために大切な「基本的な点画を書く筆づかい」「点画同士の接し方」「筆順理解」「字形バランス」の各部分に関して、正しい筆づかいや模範となる字形バランス等を児童が見て確認しやすく、また必要に応じて何度でも

繰り返し見ることでできるように、動画や静止画を使い手本や留意事項、留意箇所を表示するマルチメディア教材を作成することにした。そして、本教材を活用しながら、自分で書いた漢字は正しく書けているかを自分で点検し、修正が必要な箇所を直していく取り組みが、毛筆で漢字を正しく整えて書く基礎力を高めると考え本主題を設定した。

## 研究のねらい

毛筆楷書で漢字を書写する指導において、基本的な点画を書く筆づかい、点画同士の接し方、筆順の原則、模範的な字形バランスの各部分に関し、児童が、手本となる筆づかいの様子や漢字の形、留意事項を見て確認しやすく、繰り返し見られるマルチメディア教材を作成する。また、授業実践をとおして、その教材の有効性を検証する。

## 研究の見通し

毛筆楷書で漢字を書写する指導において、漢字を正しく整えて書く児童を育てるため、基本的な点画を正しい筆づかいで書いている動画に留意事項を文字で表示したり、点画同士の接し方や筆順、字形バランスについて静止画を用い、留意箇所に着色したり、漢字を罫線で囲み全体の形や中心がわかりやすいように図形表示したりすれば、児童が自らの課題を持って毛筆練習できるマルチメディア教材の作成ができるであろう。

## 研究の内容

### 1 マルチメディア教材の概要

#### (1) 基本的な考え方

本教材は、毛筆楷書で漢字を正しく整えて書く力を高めることを目的にしている。漢字を正しく整えて書くためには、縦画や横画をはじめ基本的な点画を正しい筆づかいで書くことや、点画同士がどのような接し方で結びついているのか、模範となる字形バランスはどうかを知らなければならない。しかし、一斉指導で教師の書く手本を見たり、与えられたプリント資料を参考にするだけでは、点画を書く際の筆づかいの動きや、点画同士の接し方の留意箇所、模範となる字形バランスを確認し、自分の書いた漢字から修正する必要がある箇所を見つけ、直していくことは難しい。

そこで、漢字を整えて書くという点から、基本の点画について、動画で手本となる筆づかいの動きとともに留意事項を繰り返し見られたり、点画同士の接し方について、留意箇所を着色した静止画で示したり、模範となる字形バランスの形について、漢字を罫線で囲み図形表示できれば、児童にとって毛筆楷書で漢字を書くときに確認すべき事柄が、視覚をとおしわかりやすくなると考える。

また、自分の側で、必要なときにすぐ留意事項や留意箇所が示される動画や静止画が見られれば、手本となる筆づかいや模範となる字形バランス等と、自分の筆づかいや自分で書いた漢字の字形バランスとを比べながら、その都度自分の課題に気付き効果的に直していける毛筆練習もできると考える。

更に、漢字を正しく書くという点から、書写する漢字の筆順やその漢字に当てはめられる筆順の原則を示す静止画を教材の中に入れれば、筆順や筆順の原則に関しての理解も深められ、文字の組み立て方や字形バランスを意識した毛筆練習へとつながっていくと考える。

毛筆には、筆先を硯で整えたり墨を付けたりする等、硬筆にはない独特の書くりズムがある

ため、清書文字の書き始めから書き終わりまでを一連した動画で教材の中に含めれば、筆づかいか点画同士の接し方、字形や筆順を総括的に確認できるだけでなく、毛筆書写の雰囲気や書くリズムまでも動画から感じられ、自ら清書する際の模範のリズムとして役立てられると考える。教材の構成に関しては、教材全体を Web 形式で構成することで、児童の練習課題に適した内容がメニューページ画面から自由に選択できるようにする。

## (2) マルチメディア教材の構成

本教材の構成は、以下のとおりである。

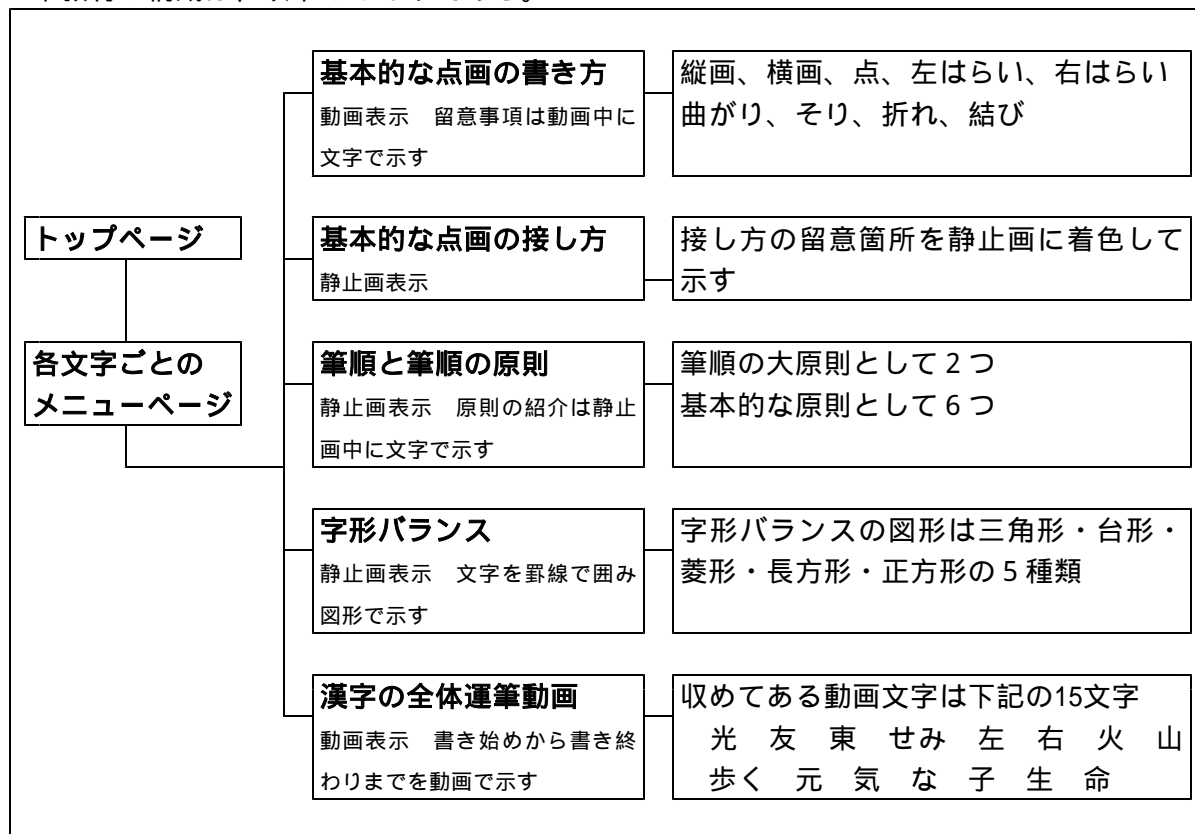


図1 教材の構成

## 2 マルチメディア教材の内容

### (1) トップページ

トップページでは該当学年で取り組む文字の一覧と、この教材が提示できる内容に関することを表示する。このトップページ画面から、児童が毛筆書写で取り組む文字を選択できるようにする(図2)。

### (2) 各文字ごとのメニューページ

表示されている文字部分をクリックすると、Web形式で作られたメニューページ画面にリンクが設定されていて、選択された文字に関する「基本となる点画の筆づかい」「点画の接し方・交わり方」「当てはまる筆順の原則・筆順」「字形バランス」「運筆の様子」の5項目が表示できるようにする。15文字全てに同様のメニューページ画面を作り、ここから各項目のページにリンクを設定し、自分の必要に

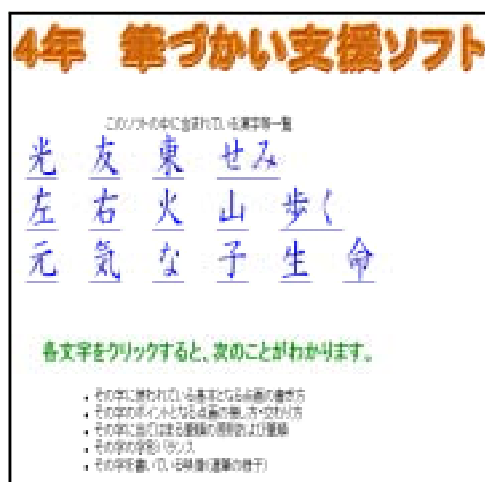


図2 トップページ画面

合わせて各項目の内容が任意に見られるようにする（図3）。

### (3) 基本的な点画の書き方

毛筆書写する漢字に使われている基本の点画について知ることができる画面構成にする。漢字のどの部分にどのような基本の点画が使われているかを赤く囲むことで、点画の部分構成をとらえやすくする（図4）。また、基本の点画についての手本の筆づかいの様子が確認できるように、点画名を表示した文字部分にリンクが設定されていて、クリックすると筆づか様子動きが動画で見られるようにする。その際に文字で筆づかいの留意事項が表示されるようにし、児童が動画のどこに着目して見たらよいか、見る観点をつかみやすいようにする。動画は手の動きと筆の動きが見やすいように、斜め後方から撮影する。動画で撮影された基本的な点画の書き方は、縦画、横画、点画、左はらい、右はらい、曲がり、そり、折れ、結びの9種類とする（図5）。

### (4) 基本的な点画の接し方

点画同士の接する部分や交わる部分が透き通って見やすいように、漢字の点画の輪郭を実線で表した静止画を用いて示す。深く接するの浅く接するの、直角にちかい形で交わるのか斜めに交わるのか、点画のどの位置で交わるのか等、点画同士が重なる部分に着色し、視覚的に接し方の様子をつかみやすいようにする。また、点画の接する部分や交わる位置の近くに文字で留意事項を表示し、自分が書いた漢字が正しい点画の接し方で書けているかどうかを確かめられるようにする（図6）。

### (5) 筆順と筆順の原則

字形を正しく書くという点から、筆順を示す番号を漢字の点画近くに付け、正しい筆順を確認できるようにする。漢字は筆順の原則に則って書き順が決められている場合が多く、筆順の原則を知ることによって、漢字の組み立て方や字形バランスの取り方についての理解を深められるようにする。また、筆順の原則を知ることにより未習の漢字でも筆順を予測しながら書ける等、漢字表記に関する理解も深めることができる。ここでは筆順の大原則である「上から下へ書く」「左から右へ書く」の2項目をはじめ、基本原則である「横画を先に書く」「中を先に書く」「左はらいを先に書く」「貫く縦画は最後に書く」「貫く横画は最後に書く」「横画と左はらいの関係」の6項目を取り挙げ、その説明とともに教材の中に含

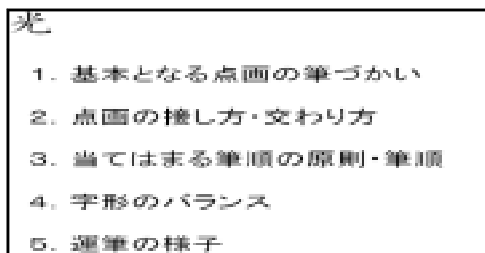


図3 文字ごとのメニューページ



図4 基本的な点画画面



図5 基本的な点画の書き方画面

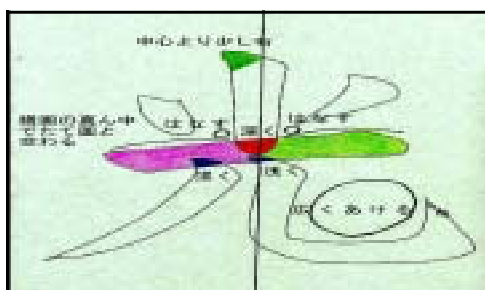


図6 基本的な点画の接し方画面

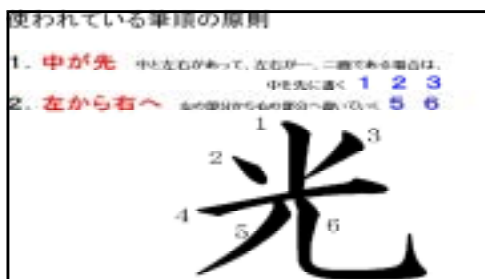


図7 筆順と筆順の原則画面

める（図7）。

#### (6) 字形バランス

半紙の縦の中心を示す中心線を静止画上の漢字に表すことで、縦の中心と各点画部分がどのような位置関係になっているのか視覚的に確認しやすいようにする。また、「火山」など二文字の漢字を書写する場合には、縦の中心線が二文字のそれぞれどこを通るかを表した静止画にすることで、文字同士の配置を視覚的に確認しやすいようにする。漢字全体を実線を用い図形で囲むことで、どのような図形をイメージしながらその中に漢字を書き収めたらよいか、児童が模範となる字形バランスをつかみやすいようにする（図8）。

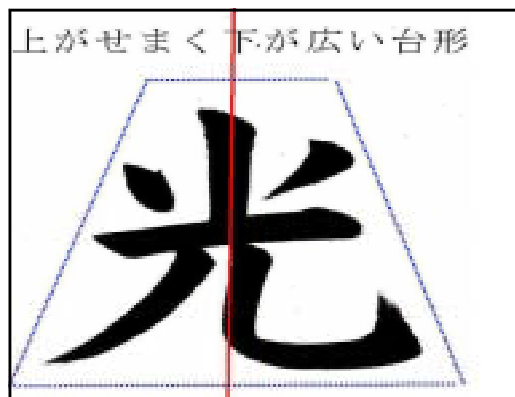


図8 字形バランス画面

#### (7) 漢字の全体運筆動画

書写練習する漢字について、基本の点画を書く筆づかいの動きや点画同士の接し方の様子、筆順や字形の整え方を総括的に確認できるように、漢字を清書する筆づかいの書き始めから書き終わりまでを一連した動画で表示する。筆先を硯で整える間や墨を付ける間隔、半紙の押さえ方など、毛筆書写の雰囲気や筆づかいのリズムまでも動画を見て実感できるように、筆づかい以外の部分も含める（図9）。



図9 漢字の清書画面

### 3 実践の結果と考察

#### (1) 授業実践の内容

単元名 第4学年国語科 書写 「画の長さや方向を知ろう 『歩く』」

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点
つかむ	画の長さや方向、点画の接し方が字形を整えて文字を書く上で大切なことに気付き、正しい筆順で「歩」を試し書きし、試し書きした毛筆文字から自己課題を見つける。	1	・「筆づかい支援ソフト」の「筆順」画面で筆順の確認をする。また、「点画の接し方・交わり方」画面上に映し出された文字や留意箇所を参考に、自己課題を半紙に記入できるようにする。
追究する	「歩」の基本の点画に関して、正しい筆づかいを確認しながら練習する。また、字形バランスや文字の配置具合を意識して「歩く」を練習する。	1	・「基本となる点画の筆づかい」画像を参考に、自己課題となる筆づかいを練習できるようにする。また、「字形バランス」の画面を参考に、各点画の位置やその文字の持つ字形的特徴に気付かせながら、筆づかいに取り組めるようにする。
まとめる	点画を書く筆づかいや点画同士の接し方、筆順や字形に気を配りながら「歩く」を清書する。	1	・「運筆の様子」の動画を参考にさせながら、これまでの留意事項や留意箇所を確認するとともに、毛筆書写の持つリズムも意識して清書できるようにする。

#### (2) 授業実践

事前に36人の児童を対象に毛筆書写に関するアンケート調査を実施したところ、「好き」と答えた児童が8人、「嫌い」と答えた児童が10人、「普通・どちらとも言えない」と答えた児童が18人であった。「嫌い」と答えた主な理由を見ると、「筆づかいがうまくできない」「文字

の形が上手に整えられない」ことを挙げている児童が多い。そこで、本教材を活用した授業実践をとおして、正しい筆づかいで基本の点画を書く力を高めたり、字形を整えて書く力を高めたりするために本教材が有効であったかを、本教材使用後の清書文字と既習の清書文字とを比較し、正しい始筆・送筆・終筆の筆づかいで点画が書けているか、点画同士の接し方は正しいか、正しい字形バランスで書けているかの三つの観点から検証した。

### (3) 結果と考察

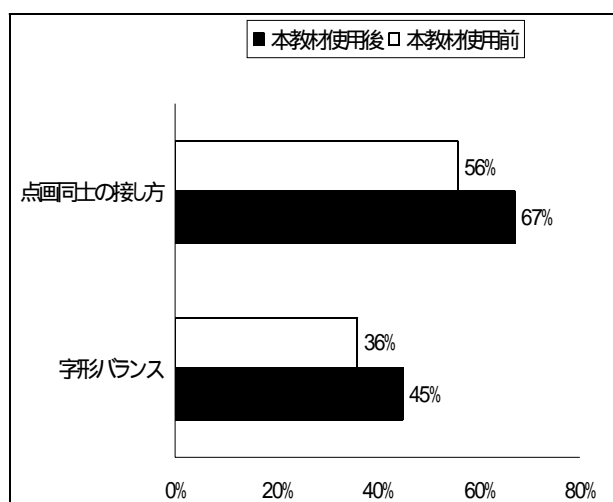
授業時にはコンピュータが2人で1台しか使用できない環境であったが、一斉指導で行った筆順、点画の接し方、字形バランスの取り方を確認する場面では、ディスプレイに映し出された漢字を正しい筆順でなぞり書きしたり、点画の接し方や字形バランスの取り方で留意箇所を指摘しながら学習するなど、漢字を正しく整えて書くために必要な基本事項を進んで確認しようとする様子が見られた。また、自分の書写文字と本教材中の手本文字とを見比べて、筆づかいのどの部分に自己課題が見られるか、どの点画の接し箇所が自己課題となるのか等を見出し、筆づかいや点画の接し方の修正に必要な動画や静止画を見ながら毛筆練習に取り組む児童も多く見られた。このことは、筆づかいの動きを動画で示したページや、手本の文字をわかりやすく示した静止画のページが学習内容を焦点化し、それが児童の学習意欲の喚起につながったためと考えられる(図10)。



図10 授業で活用の様子

本教材を使用した後に清書した漢字において、清書した漢字の点画同士の接し方や字形バランスが正しく書けていたかを指導者が手本と比較し検証してみると、次のような結果が見られた(表1)。手本どおり書くことのできた児童の占める割合は、いずれも本教材使用前と比べて10ポイント近く向上した。その要因として、動画や静止画を通じて点画の重なり具合や漢字の正しい字形を十分確認し、自分の筆づかいを見比べ、随時修正する毛筆練習ができたためと考えられる。このことから、漢字の点画が重なる箇所に、重なり具合によって色を変え着色したり、漢字を罫線で囲み図形として表したことは、児童が漢字の点画同士の接し方や字形バランスを正しく認識するために有効であったと言える。しかし、縦画や横画等、

表1 教材使用前と使用後の比較



書写漢字に含まれる基本的な点画を正しい筆づかいで書くことのできた児童の割合を、指導者が手本と比較し検証してみると、本教材使用前と使用後で差はほとんど見られなかった。基本的な点画を書くときの筆づかいに関しては、動画でその動きを確認できるようにしていたが、実際に点画を書いている早さの筆の動きで動画が再生されていたため、児童が始筆、送筆、終筆の全てにわたって、正しい筆づかいの動きを十分確認するのが難しかったことがその理由と考えられる。始筆、送筆、終筆の三つの内、いずれかが正しい筆づかいで書けなかった児童も、

手本となる筆づかいの様子をスローモーション再生による動画で見られたり、筆先の様子を多方向からの静止画で見ることができれば、正しい筆づかいで基本の点画を書けるようになると考える(図11)。

授業実践後に行ったアンケート調査の中で、「基本的な点画を書く筆づかいを動画で示したり、字形バランスを図形で示したりすることは、自分が毛筆練習するときや清書するときの参考になりましたか」という問いに対して、全員が「参考になった」と答えていた。本教材についての感想では、「もう少し筆づかいの動画が見やすい方がよい」「画面を見て練習する時間がもっとほしい」等の回答も多く見られた。



図11 児童が書いた清書文字

### 研究のまとめと今後の課題

本研究では、児童が漢字を正しく字形を整えて書く力を高めていけるように、毛筆書写の学習に視点を当て、正しい筆づかいの動きや字形バランス等を確認しつつ毛筆練習するためのマルチメディア教材の作成を目指してきた。本教材を使用した授業を実践し、その後の検証結果や児童へのアンケート結果から次のことが分かった。

正しい筆づかいで基本の点画を書くという部分では、動画を使い正しい筆の動きを示したことにより、動画を参考に筆づかいの練習をしようとする意欲の喚起が図れた。

字形を整えて書くという部分では、静止画を使い点画の一部に着色したり、漢字を罫線で囲んだりして、点画の重なりの様子や字形バランスを見やすく示したことにより、文字の組み立て方を確認しつつ効果的な毛筆練習をすることができた。

以上のことから本マルチメディア教材は、毛筆書写において、児童が漢字を正しく字形を整えて書く力を高める教材になったと考える。

今後の課題として、検証結果や児童へのアンケートで挙げられた「筆づかいの様子が見やすい動画」に関し、用いる動画に筆先のクローズアップ部分を加えたり、動画を再生する方法にスローモーション再生を含め変化を付けたりすることで、更に筆づかいの様子が見やすくなるように本教材を充実させていきたい。

#### 参考・引用文献

- ・『小学校学習指導書 書写四年』 光村図書 (2002)
- ・永田光風 『筆順と字形のポイント』 光村教育図書 (1979)